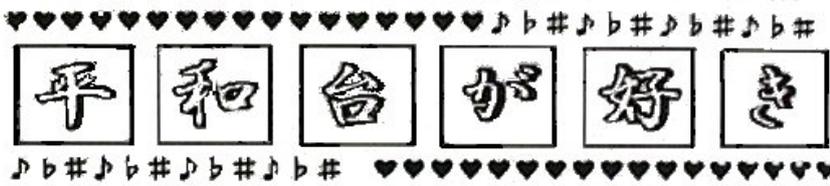


平成20年1月12日発行  
第63号

発行  
印南宏後援会  
発行責任者 印南宏



おめでとうございます  
おめでどうございませう



平和台の皆さん、二〇〇八年の輝かしい新年あけましておめでどうございませう。昨年は、多大なるご支援とご協力を頂戴し、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

### 「我孫子市の現状」

さて、私たちの街我孫子市は、昨年一月に市長選挙が行なわれ、新たに星野市長が誕生しました。また、十一月の市議選では定数二十八名に対し三十九名が立候補する中、現職四名が落選、新人六名が当選するなど、政治的にも大きな転換期を迎えています。

我孫子市をめぐる周辺環境も今、大きく変化しています。平成十五年二月、我孫子市は近隣市と合併をせずに独自のまちづくりを推進することを決めました。現在、少子高齢化が本格化して住民からの税収規

模が小さくなる中、我孫子市の周辺の街ではそれらに対応した変化が起こっています。

例えば、お隣の柏市は沼南町を吸収合併し、今年四月には中核市に移行しますし、平成十七年八月に開業したT×つくばエクスプレスにより沿線の開発は急ピッチに進んでいます。

また、当市の南に位置する印西市は、千葉ニュータウンを中心に成田新高速鉄道、北総線沿線に大規模店舗が次々とオープンするとともに、二年半後には東京都市と成田国際空港を最速三十分台で結ぶ成田新高速鉄道の全線開通予定となるなど利便性がますます高まっています。

その一方で、それらの中間に位置している当市は、これからの税収財源として期待されるべき商業、工業とも大変厳しい状況にあるのが現実の姿となっています。

### 「今後の我孫子まちづくり」

今後、私たちの街は市民サービスを下下させず持続可能な財政運営をいかに構築していくのか、重要な課題となっています。そのために、事業の選択についても「あれも、これも」から、「あれか、これか」の厳しい選択を余儀なく

されています。そのために、事業選択をどう進めていくのか、また、団塊の世代の多くが定年を迎えて地域に戻ってきた時に、このシルバー世代の貴重な人材資源をどう市政とまちづくりに活かしていくのか、超高齢化社会を迎えている現代、地域の中に、どのようにして協働の助け合いの精神社会を構築していくのか、星野市長のリーダーシップと私たち市議会の責任が強く求められているものと思っています。

新たな議員任期(十二月一日)がスタートしました。今期(四年間)も議会終了のたびに、本誌、「平和台が好き」を発行してまいります。引き続きのご愛読とご意見等をお待ちしています。

### 十二月定例市議会終了

十一月の市議選で選任された新議員による初めての議会、十二月議会が終了いたしました。十二月議会は、十二月六日から二十一日まで十六日間開催されました。議案は障害者外出支援事業費、生活習慣病検診費など三億三百万円を追加する一般会計補正予算案や、市の機構改革を盛り込んだ行政組織条例改正案など二十議案を可決、閉会しました。

### 正副議長の選任

市議会初日に正副議長選挙を行い、我孫子市議会で初の女性議長が誕生しました。議長に宮本慈子氏(四十九歳・市政クラブ)、副議長に沢田愛子氏(六十歳・公明党)が選任されました。なお、議長選挙では有効投票数二十八票中、二票が共産党の議長候補、残り二十六票中、十三票ずつを宮本候補、坂巻候補で分け、最終的に地方自治法百八条の規定により「くじ引き」抽選で議長が選任されました。(坂巻宗男十三票、宮本慈子十三票、関口小夜子二票)

### 是非、ご覧下さい

- 印南が代表を務める「あびこ21」ホームページ  
<http://abiko21.exblog.jp/>
- 印南 宏 ブログ  
<http://hiroshi4649.at.webry.info/>
- 我孫子市 公式ホームページ  
<http://www.city.abiko.chiba.jp/>

主な争点

- ◆十二月議会の主な争点
- ◆我孫子市と柏市の境界付近、根戸城址や遺跡のある場所に巻き起こった霊苑建設問題(北柏駅前手賀沼霊苑)請願の賛否
- ◆十一月に発覚した市職員の不祥事について
- ◆新しい市議会の会派構成、正副議長選の行方

根戸城址付近は我孫子市で唯一、我孫子の原風景が残されている場所です。また、北柏駅に近く、便利の良い土地のため手賀沼沿いの根戸新田近辺は大手流通業者の進出の噂や今回の墓地建設の動きなど、頻繁に大型開発の動きが起こる地区となっています。

この地区の将来について今後、我孫子市はどのようなまちづくりをしていくのか、明確な方針を示し、我孫子市の発展につながる街づくりを行っていくことが重要になっていきます。

〓十二月定例市議会  
印南 宏 個人質問骨子

活力ある自立したまちづくり

- (市議選を終えて、市民ニーズにどう応えていくのか)に関する質問
- ①我孫子駅西口改札の新設
- ②歳入増の施策
- ③地域活性化策(ハードとソフト)

- ④さらなる広域行政の推進
- ⑤成田線の利便化

根戸城址での墓地開発に関する質問

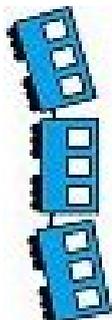
- ①市の基本姿勢
- ②説明会の開催
- ③取り付け道路問題
- ④埋蔵文化財の発掘
- ⑤厚生労働省ガイドライン

職員の不祥事に関する質問

- ①市長の姿勢
- ②調査委員会
- ③新たな人材育成制度の導入

<我孫子市議会 新たな会派構成>

仁政会	秋谷代表	6名
緑政クラブ	川村代表	5名
公明党	沢田代表	4名
市政クラブ	宮本代表	3名
<b>あびこ21</b>	<b>印南代表</b>	<b>3名</b>
*印南は教育福祉常任委員会に所属		
政策グループあびこ	内田代表	3名
日本共産党	関口代表	2名
無所属(豊島、海津)		2名
		全28名



お答えいたします。

〓市議選時に頂いたご意見より抜粋

Q:どうなっている成田線(我孫子、成田間)の増発、複線化問題

宏:平成五年をピークに成田線利用者が激減方向にあります。JR千葉支社は利用者が減少傾向の中では複線化の予定を組むことや新たな設備予算は考えられないと答弁しています。成田線の増発は平成二年三月のダイヤ改正以降、現在まで行われていません。

成田線複線化促進期成会が、昨年調査した増発に向けた「成田線輸送改善調査計画」にある四案の内、成田駅始発案(※)を中心に具体的な増発を進めるように要望しています。今後、成田線複線化期成会に所属する自治体の中で、受益を受ける(利用者)住民の多い自治体の参加による新たな組織を来年早々に立ち上げ、各自自治体の事業費負担割合なども決めてJRへ、今年五月を目途に具体的な提案する予定となっています。

成田線の利便化は我孫子市の活力ある自立したまちづくりには欠かすことのできない重要な課題であり、あきらめることなく、今後も増発、利便化に向けて取り組んでいきます。

※成田駅に電車を滞留する線路を新設し、電車の増発を可能とする方法。

Q:市民バス(愛称あびバス)のルートを広げて欲しい。

宏:平成十七年三月、民間事業所送迎バス(十事業体)のご協力を得て、高齢者などの外出支援制度がスタートしました。あびバスは現在運行している「新木コース」に続き、平成十八年一月から運行開始した「船戸・台田コース」、「栄・泉・並木コース」の三ルートが現在運行されています。

ルートの選定は、①高齢者の多い地区、②既存の路線バスの通っていない地区、を原則として優先度を判定してルートが決定され、市内各駅に接続するようになっています。費用は年間バス一台、約一千万円かかっています。今後、超高齢化社会に向けて市民バス(コミュニティバス)の必要性は年々高まっていくものと考えられます。平成二十二年に予定している市民バス運行指針の見直しの際、コース増、ルートの見直し、図書館やアピスタへの接続等も含めて強く要望していきます。

Q:安心して住み続けるための防犯対策を強化して欲しい。

宏:平成十八年四月、我孫子市生活安全条例が施行されました。それに基づき平成十九年六月我孫子市防犯計画(第一次、平成十九年度〜二十三年度、)犯罪のない安全で安心なまちづくり)を作成。この計画を

基に防犯対策を強化しています。我孫子市の安全度を指標で表すと平成十九年七月現在、大都市近郊で人口が十万人から二十万人の市、百二十市中、十八位となっています。日本一安全で安心なまちの実現に向けた取り組みを市、市民、自治会等、事業者、関係機関、教育機関の適切な役割分担のもとに連携して取り組んでいきます。

## 宏と語る

### 根戸城址での墓地開発について

柏市との市境に位置する根戸城址付近にて、今、墓地開発が行われようとしています。この土地は平成十六年十一月十六日、サツカーグラウンドとして農地転用された土地であります。そして、その直後に墓地の開発が申請されるという、いわく因縁のある土地でもあります。

それを受けた農業委員会は平成十七年四月二十六日、「サツカーグラウンドとして継続使用することの申し入れ」を強く文書で通知をしたことは言うまでもありません。

また、今年九月の決算委員会の答弁で明らかにしたように、十八年度も継続的に墓地としての開発について、問い合わせが頻繁にされています。事実も明らかになりました。そもそも墓地にするための農地転用だったのではないかと強い疑念が残っています。農業委員会の申し入れ

が今日まで、全く無視されていることも大きな問題だと私は思っています。

一方、我孫子市は今年七月、手賀沼のほりにある文化・歴史・自然環境に関わる地区をネットワーク化し、多くの市民が我孫子の豊かさを実感できる空間づくり、我孫子の魅力を向上させる計画として「手賀沼文化拠点整備計画」を策定しました。この計画では、根戸城址を中心に歴史公園として整備することになっています。我孫子市の「緑の基本計画」でも同様な位置づけをされており、交流の促進や地域活性化に寄与する地区として重要な位置づけを持った地区となっています。

このような状況の中で、市は墓地の開発を単純に認めるのではなく、如何にしてこの地区を保全していくのかを、第一に考え、知恵を絞る様々な手段を講じながら、まちづくりを進めていく必要があると私は思っています。

この墓地開発は根戸城址周辺の保全もさることながら、農地転用の問題や取り付け道路の確保、埋蔵文化財の発掘調査、厚生労働省のガイドラインによる土地所有の問題など、まだ不確かな部分や調整をしなければならぬ課題が多く残っています。現時点で事前協議を終えられる段階ではないと私は考えます。

また、既に周辺住民の方や手賀沼トラスト・我孫子の文化を守る会、我孫子の景観を育てる会などからも市へ要望書が出され、十二月議会で

は請願、陳情も提出されています。内外の市民の関心も極めて高くなっている墓地問題です。

厚生労働省のガイドラインでは、墓地経営の許可について「許可しないことができる」のであって、行政の広範囲な裁量に委ねられるとされています。いわゆる開発行為のような「許可しなければならぬ」とは異なることを市は十分に考慮しながら、行政指導に当たると考えます。繰り返しますが農地転用問題、取り付け道路、土地所有の問題など、行政の広範囲な裁量の範囲に入る問題も多くあります。このような問題がある中で、仮にこの墓地計画を現段階で許可すればそれは我孫子市として墓地開発を誘導したことにつながることもなると考えます。慎重が故にも慎重を期して事前審査を行うことを強く要望するものであります。



## 宏と語る 小さな小さな ティーパーティー 開催中!

♪お気軽にお電話ください♪  
後援会事務局 TEL 7184-2860  
自宅 TEL 7189-1598

### 職員の不祥事について

我孫子市職員による公金等の横領事実が明らかになり、平成十九年十一月五日付けで懲戒免職となるといふ悲しい事件が起こりました。横領された公金は全額返済されているにせよ、市民の皆さんに対し、市政に対する信頼を著しく失墜させたことについては市政に携わる議員の一人としても誠に遺憾であり、残念であります。二度とこのような過ちが起らないように万全なる再発防止策を講じていく必要があると思っています。

それにしても今回の事件の背景には様々な諸問題、市職員が置かれている職場環境の変化など多くの問題が含まれているような気がしてなりません。

例えば、第一次から第三次に至る定員管理適正化計画による常勤職員数の削減、特に本庁の一般事務職や土木技師等の人員不足、仕事・事業数は減らずに人員のみ減少している絶対的工数不足の実態、常勤職員と臨時職員・非常勤の一般職員とのバランス、管理職が本来の管理業務ができず、担当化している業務内容、年齢別職員の逆ピラミッド状態など、それに加え、最近特に感じる市職員の士気の低下懸念など、抜本的な改善には、単なる研修制度等の充実などでは改善できない、深い問題が潜んでいるものと私は考えています。

現在行っている市職員採用方法から採用人数、管理職研修の在り方や人事制度全般にわたって将来に禍根を残すことのないように見直すことが急務であると考えています。

今回の事件を契機に、徹底的な原因究明、再発防止策に総合的に取り組む必要があると改めて強く認識をされているところです。

そして、昨今の急激な団塊世代、管理職層の大量退職に対する対策や勤務実績、人事考課による給与反映システムの導入などは急務となっています。

特に、退職者欠員に対する採用の原則を設けることや一定の成績を基準にした文化・スポーツ枠の採用など、新たな採用制度の新設を行なうことなども必要だと私は考えています。



平和台雑感

今年も除夜の鐘を聞きながら、地元、布佐の竹内神社へ夫婦二人で初詣。迎えた二〇〇八年、今年もどうか、健康で元気に仕事ができますように心を込めてお祈りをした。参道で行き交う近所の方々に新年の挨拶を交わしながら、見上げた夜空には満点の星がキラキラと輝いていた。

感謝！◆毎年、お正月は箱根駅伝を楽しみにしている。今年は地元千葉県から出ている順天堂、東海や大東文化の三校が走者の脱水症状などに襲われ、途中棄権となってしまう。往復二百五十キロをつなぐタスキの糸が切れてしまった。箱根駅伝の怖さ、難しさを改めて思い知った。その中で、我が我孫子市の代表である中央学院は予選会をトップで通過、本戦でも堂々の三位。過去の大会記録九位を上回る最高の順位で入賞した。すばらしい。テレビでの応援となったが感動した。特に九区の主将、篠藤選手は、三人を抜き、区間記録を三十七秒も更新、チームの躍進に貢献した。駅伝のMVPである金栗杯の栄誉も手に入れた。おめでとう。選手の皆さん、今年も多くの感動をありがとう。◆ある先生から、以前こんな言葉を聞いたことがある。「子どもを知的にするには、親子の会話が大事である。良い学校に通わせたり、習い事をさせたりする以上に大事なことだ。」と。私は自分の子ども達が小さい頃、親として十分な会話、コミュニケーションをしていたのだろうか。仕事柄ふと考えることがある。昨年十一月にあった市議選。早いものでもう二ヶ月を経ている。今回の選挙で初めて、二十歳になった息子が選挙運動と一緒に取り組んでくれた。私にとって、うれしかった出来事の一つである。なぜなら、親の背中、私の仕事の一部を見ながら、息子と一緒に選挙戦を経験できることは、私にとっても大きな励みにな

ると共に、息子にとっても、良い人生経験になると思ったからだ。一週間の選挙戦が終了した投票日の前日、土曜の夜八時過ぎ。私は選挙事務所に戻り、スタッフ全員に対して一週間の苦しい選挙戦に対し、心からの御礼、感謝の言葉を申し上げた。私の挨拶後、突然司会者から指名され、挨拶に立った息子の言葉は私にとって一生忘れられないものとなった。息子曰く『小さい頃、私はお父さんが嫌いだ。議員として小学校に挨拶に来たりすると、印南という姓が珍しいためか、すぐに僕のお父さんであることが知られてしまい、よく友達からかわれたりした。何でお父さんは、こんな仕事をしているのだろう。子ども心にお父さんの仕事を嫌っていた。でも、今回、お父さんの選挙を初めて一緒に戦い感じたことは、息子の僕がお父さんを応援することは当然のことだが、息子の僕より、ここに居る皆さん全員がお父さんを当選させるために、自分のことのように一生懸命戦っている姿に僕は感動した。本当にありがたいと思っただ。政治の大切さも少し理解すると共に、お父さんを尊敬できる人だと思っただ。』そんな挨拶だったと思う。私は泣けた。確かに、何度行なっても選挙は苦しい。そして、毎回、号泣する。その真剣さ、それが選挙なのだと思っただ。◆毎年、元旦に新年の抱負を新たな手帳に書き込んでいる。今年は一週間、一冊はジャンルを問わず本を読むこと。②一週間に一日以上、お酒を

**印南 宏後援会**  
 〒270-1198 我孫子市日の出 1131  
 (日本電気労働組合我孫子支部内)  
 Tel 7184-2860

**印南 宏 自宅**  
 布佐平和台 7-1-18  
 Tel 7189-1598  
 e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp  
 ブログ http://hiroshi4649.at.webry.info/

行政相談もこちらに！ご意見お待ちしております。



宏

完全に抜くこと。③何かひとつ、新たなスポーツにチャレンジすること。④川柳に取り組んでいくこと。を記した。さて、今年はいくつの抱負が実現できるのか、三日坊主にならないことを祈りながら、新年がスタートした。皆さん今年もご愛読をよろしくお願ひしたい。